

1 胆沢ダム水源地域ビジョンの基本理念及び基本方針

1 胆沢ダム水源地域ビジョンの基本理念及び基本方針

1.1 水源地域ビジョンの基本理念

本水源地域の現状や課題を踏まえ、胆沢ダム水源地域の将来像として、ビジョンの基本理念を以下のとおり定め、地域の自立的・持続的な活性化を目指します。

【基本理念】

胆沢 水風土の継承と創造

日本三大扇状地の一つである胆沢扇状地は、古くから人々に水の恵みをもたらし、その水の恩恵が豊かな地域の産業、風土を育み、奥州の地で隆盛を極めた平泉の前史を築いてきました。胆沢扇状地には水に関連した自然、歴史、文化などの“水風土資源”が豊富に存在しています。また、そのような水風土資源を守り育み、地域活性化につなげていこうとする取組もみられます。

このような胆沢扇状地に誕生する胆沢ダムは、水を巧みに活用してきた地域の新たなランドマークであり、扇状地の「水」を象徴する北上川流域の水風土のシンボルであります。また、雨が降り、水が蓄えられて、水源地域に養われ、胆沢扇状地や北上川に流れて、さらに海からまた空に戻り雲になる水循環にも重要な役割を果たします。

胆沢ダムの完成を契機として、良好な利水・治水を有した胆沢扇状地の豊かな水風土資源を守り、活かし、伝えながら、それらの資源性を十分に引き出し、新たな地域活性化につなげていく取組をより一層活発化していくことを指向します。そして、多様な主体の参加と協働によって生き活きとした「胆沢水風土」の創造を図っていくものであります。

1.2 水源地域ビジョンの基本方針

胆沢ダム水源地域の活性化に対して地域が現在抱える課題等を踏まえ、水源地域ビジョンにおける取組の方向性について、以下の5つの基本方針を提案します。

1. 胆沢扇状地の豊かな水と森林などの資源を守り育み、活かす

2. 胆沢ダムが育む水風土資源を活かした環境学習・観光レクリエーション振興を図る

3. 胆沢扇状地の自然・歴史・文化資源を活かした産業振興を図る

4. 水でつながる地域と上下流の交流を活発化する

5. 自立的かつ持続的な水風土ネットワークをつくる

図 1-1 胆沢ダム水源地域ビジョンの基本方針

1 胆沢ダム水源地域ビジョンの基本理念及び基本方針

【基本理念】

【基本方針】

【◆取組テーマ】

●具体的な取組

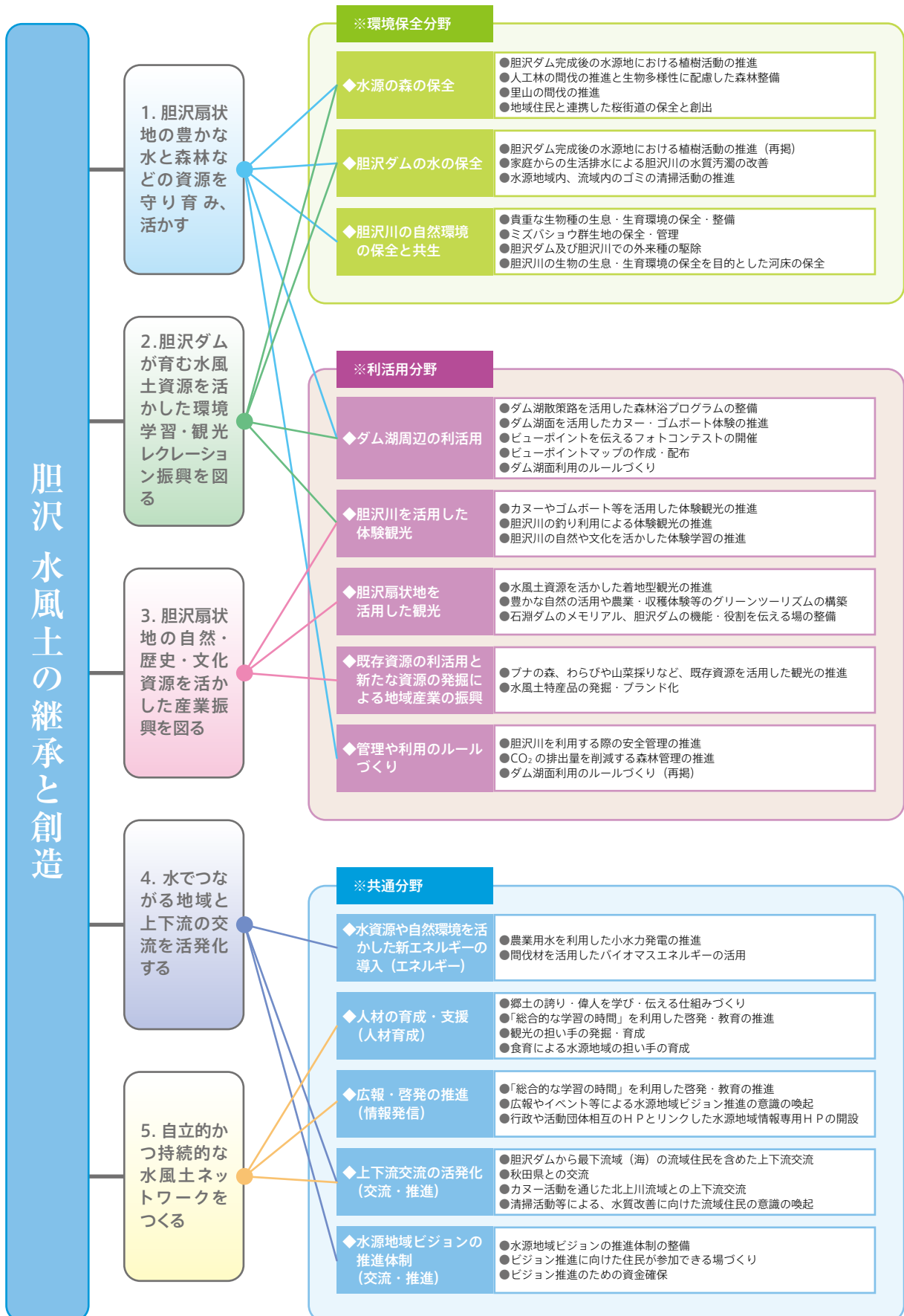


図 1-2 基本理念・基本方針・取組テーマの関連図

1 胆沢ダム水源地域ビジョンの基本理念及び基本方針

方針－ 1 | 胆沢扇状地の豊かな水と 森林などの資源を守り育み、活かす

胆沢川流域の森林と胆沢ダムが育む豊かな水資源は、胆沢扇状地の産業と生活を将来にわたり支える基盤であり、地域活性化に活用していくべき重要な資源です。

このため、水資源をかん養する森林を守り育むため、適切な森林管理と森林整備の継続・充実が重要であるとともに、CO₂の吸収源としての保全・育成も含め、郷土種の植樹活動や育樹活動をより活発化します。

また、新たな水資源の要である胆沢ダム、胆沢川、用水などの資源や、豊かな森林と水に育まれる多様な生態系を適切に保全・管理していきます。



方針－ 2 | 胆沢ダムが育む水風土資源を活かした 環境学習・観光レクリエーション振興を図る

胆沢ダム完成に伴い、国内最大級のロックフィルダム、広大な湖面を有した胆沢ダム、豊かな水量と水質を有した胆沢川が新たな水風土資源となります。また、ダムの周辺は展望広場や、親水公園、カヌーコースなどの新たな観光レクリエーション資源が生まれます。

これらの新たな水風土資源を活かし、胆沢川や周辺の自然資源や既存施設「ひめかゆ」や胆沢スキー場などの観光レクリエーション資源、遺跡や水利遺構などの文化資源とリンクさせ、「胆沢まるごとダムパーク」として一体化し、それらを環境学習やカヌー、釣り、森林浴などのウォーキング、着地型観光などの観光レクリエーションの振興や健康増進に最大限に活用していきます。



方針－ 3 胆沢扇状地の自然・歴史・文化資源を活かした産業振興を図る

胆沢扇状地及びその周辺部には、日本三大扇状地である胆沢扇状地そのものをはじめ、焼石岳、散居集落、旧穴山堰、ミズバショウ群生地などの多様な水風土資源や、平泉の前史にあたる歴史・文化資源が豊富に存在しています。このような胆沢の水風土資源を保全しながら、観光、農業、漁業、商業の振興などにさらに活用していくことが地域の活性化につながります。

例えば、世界文化遺産である奥州平泉とリンクさせた着地型観光ツアーを組み立てる、自然・歴史・文化資源を活用したグリーンツーリズムの更なる展開を行う、豊かで清らかな水を活かした農産物の地産地消の発展的な展開やブランド化などを図ることを指向します。



方針－ 4 水でつながる地域と上下流の交流を活発化する

水源の森林、胆沢ダム、胆沢扇状地が育む水の大切さを胆沢扇状地の住民や北上川下流域の住民に伝えていくことが必要です。また、上流住民には、下流の状況を知ることによって上流の環境を守り育むことの意義を伝えることが必要です。

このため、現在、部分的に行われている植樹活動やサケの放流、川下りなどの上下流交流などの取組を活発化する、上下流の関係団体と交流・連携する、上下流交流を観光につなげていく、流域の企業の社会貢献活動の参画を図るなど、胆沢川及び北上川において水でつながる地域の交流を活発化します。また、水源の森林を活かした環境学習やレクリエーション活動などを活発化し、より多くの流域住民に森林の素晴らしさを伝えていきます。



方針－ 5 自立かつ持続的な水風土ネットワークをつくる

多様な主体の参加と協働によって推進していくための仕組みづくりを行い、胆沢扇状地の水風土を将来にわたり持続的に維持・発展させていくことが必要です。そのためには、自立かつ持続的な資金と人材を確保し、それらによって水風土の保全と活用が促され、さらにそれらが新たな資金と人材を生み出すというような好循環の仕組みをつくっていくことが重要です。

胆沢扇状地の水風土資源と周辺地域や流域とのネットワーク化を図りながら、観光やCO₂削減と組み合わせた環境保全の活発化、企業の社会貢献活動とのリンク、水風土観光の活発化、適切な人材育成プログラムなどの導入を図ります。



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

2.1 水源地域ビジョンの取組テーマ

上記で示した基本理念と5つの基本方針に基づいたビジョンの取組テーマは以下の通りです。

【環境保全分野】

- ◆水源の森の保全
- ◆胆沢ダムの水の保全
- ◆胆沢川の自然環境の保全と共生

【利活用分野】

- ◆ダム湖周辺の利活用
- ◆胆沢川を活用した体験観光
- ◆胆沢扇状地を活用した観光
- ◆既存資源の利活用と新たな資源の発掘による地域産業の振興
- ◆管理や利用のルールづくり

【共通分野】

- ◆水資源や自然環境を活かした新エネルギーの導入（エネルギー）
- ◆人材の育成・支援（人材育成）
- ◆広報・啓発の推進（情報発信）
- ◆上下流交流の活発化（交流・推進）
- ◆水源地域ビジョンの推進体制（交流・推進）

2.2 水源地域ビジョンの具体的な取組

水源地域ビジョンの取組テーマにおける意見・提案等を踏まえ、胆沢ダム水源地域ビジョンの具体的な取組は以下の通りです。

【環境保全分野】

◆水源の森の保全

胆沢川流域の森林と胆沢ダムが育む豊かな水資源は、胆沢扇状地の産業と生活を将来にわたり支える基盤であり、地域活性化に活用していくべき重要な資源です。このため、水資源をかん養する森林を守り育むため、適切な森林管理と森林整備の継続・充実、植樹活動や育樹活動の活発化を図ります。

<具体的な取組>

●胆沢ダム完成後の水源地における植樹活動の推進

現在、胆沢ダム周辺で市民団体等が植樹活動を実施していますが、工事用地での植樹活動は、胆沢ダム完成までの期間限定の取組です。

胆沢ダム完成後も、胆沢ダムの水源かん養を高めること、森林体験の重要性を多くの人に伝えることを目的に、地域の樹種であるブナ等の植樹の環境を整え、植樹活動を体験できる機会を作り、水源の持続可能な保全と利用を図ります。

林野庁及び関連行政との協定を結ぶなどの調整を図り、植樹のフィールドを整備し、植樹活動を推進します。



●人工林の間伐の推進と生物多様性に配慮した森林整備

水源地域の森林は、治水や利水、環境面において重要な役割を果たすことから、適切な森林管理として、機械化による人工林の間伐を推進します。人工林においては、間伐により広葉樹を誘導して針広混交林を整備し、植生の多様性を高め、生物多様性のある森づくりを行います。

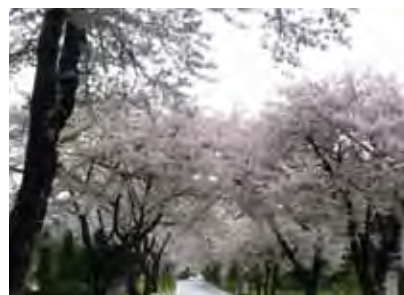
●里山の間伐の推進

適切な森林管理として、里山の間伐を推進します。広葉樹を対象とした間伐を行い、バイオマスエネルギーとしての木材利用の活用を図ります。また、間伐の体験学習のフィールドを整備し、地域の小学校を対象とした親子での間伐の体験イベントを実施するなど、水源地域や間伐の重要性や里山の環境保全に対する意識啓発を促します。

●地域住民と連携した桜街道の保全と創出

奥州市郊外から胆沢ダムへ向かう国道 397 号の桜街道を胆沢ダムまで連続させるため、奥州市胆沢ダム周辺整備事業と連携し、道路沿いに桜を植樹します。

植樹に際しては、オーナー制度※を導入し、植樹したオーナーの名前を入れることによる地域住民と連携して行います。オー



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

ナー制度の費用は桜の苗木購入費、維持管理費に充当します。

※地域住民が樹木のオーナーとなり、植樹・維持管理などを実施し、地域で植樹した樹木を守ってゆく仕組み。誕生・入学・卒業・結婚など、記念樹として募集する例などがある。

◆胆沢ダムの水の保全

胆沢扇状地に誕生する胆沢ダムは、水を巧みに活用してきた地域の新たなランドマークであり、扇状地の「水」を象徴する北上川流域の水風土のシンボルです。胆沢ダムの水質を保全するため、水源地域内、胆沢川流域内のゴミの清掃活動の活発化を図ります。また、各家庭からの生活排水による汚濁の負荷の低減を図り、胆沢川の水質保全に努めます。

<具体的な取組>

●胆沢ダム完成後の水源地における植樹活動の推進（再掲）

●家庭からの生活排水による胆沢川の水質汚濁の改善

胆沢ダムは、水道用水の供給、河川維持流量の供給など、胆江地域の生活・産業基盤を潤す重要な役割を担います。そのため、胆沢ダム及び胆沢川の水質汚染につながる洗剤の利用の抑制や、せっけん作り、家庭等の生活雑排水の浄化、利水者と連携した水質調査の実施など、水質汚染防止への意識の向上、協力の呼びかけを行います。

●水源地域内、流域内のゴミの清掃活動の推進

流域内の活動団体や地域住民が協力・連携し、胆沢ダム水源地域内や胆沢川流域内の清掃活動を推進します。また、本地域は秋田県との接点であることから、県境の秋田県東成瀬村ともタイアップした清掃活動を推進します。

さらに、ゴミの不法投棄が多い箇所等は特に注意看板を設置したり、定期的にゴミの不法投棄防止のパトロールを実施し、行政指導・処分等を図るなど、ゴミのない地域づくりを目指し、胆沢ダム及び胆沢川の水の保全に努めます。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆胆沢川の自然環境の保全と共生

胆沢川流域ユキツバキ群落、ヒメカイウ群落、ミズバショウ群生地など、胆沢ダム周辺には数多くの貴重な植物種が存在します。また、動物ではニホンカモシカをはじめとする 20 種類以上のほ乳類が生息するなど、胆沢ダム周辺は多様な動植物が生息・生育する自然環境を有しています。

自然環境の保全と共生のために、生息・生育環境の保全・整備、地域住民の参加による保全活動の充実を図ります。

<具体的な取組>

●貴重な生物種の生息・生育環境の保全・整備

胆沢ダム周辺の生物を保全するために、貴重な生物種の生息・生育環境の確保を図ります。そして、地域住民の参加による保全活動の充実を図ります。

ダム上流部の大平野地区のビオトープや、徳水園のビオトープなどを環境学習のフィールドとし、自然環境についての学習会等を開催していきます。また、徳水園のビオトープに貴重種の移植が可能であるかを検討し、移植できる場合はアドプト制度※を用いた市民による維持管理を検討します。

※アドプト制度：行政と市民が協定を結び、行政が整備した公共施設を市民がボランティアで管理する制度

●ミズバショウ群生地の保全・管理

胆沢扇状地のミズバショウ群生地を地域の住民、行政、企業などの多様な主体の参加と協力により、持続的に保全・管理していきます。また、胆沢扇状地のミズバショウの群生地を環境学習のフィールドとし、自然環境についての学習会等を開催していきます。

●胆沢ダム及び胆沢川での外来種の駆除

胆沢川の生物の生息・生育環境の保全を目的として、胆沢ダムからの放流で胆沢川の流況を改善することにより、生態系の保全を図ります。また、胆沢川の流量の増加により、現在、胆沢川下流で確認されているブラックバス、ブルーギルなどの外来種が遡上することも想定されるため、外来種の駆除策等について検討します。



●胆沢川の生物の生息・生育環境の保全を目的とした河床の保全

胆沢川では、流域の土砂移動量が少なく、特に北上川と合流する下流部付近で河床低下が著しい状況にあります。今後は胆沢川の河道の変化を追跡・調査し、上流からの土砂を考慮しながら、下流の河床の保全・安定化を図るなどの取組を行い、胆沢川の環境の保全を図ります。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

【利活用分野】

◆ダム湖周辺の利活用

ダム湖面を新たな観光資源として、森林浴、カヌーなどの体験活動や、ダム湖周辺の風景や自然を楽しむ場としての活用を図ります。また、ダム周辺の展望広場、親水公園、カヌーコースなどの新たな水風土資源を活かし、既存施設「ひめかゆ」や胆沢スキー場などのレクリエーション資源とリンクさせ、「胆沢まるごとダムパーク」を具体化し、地域活性化を図ります。

<具体的な取組>

●ダム湖散策路を活用した森林浴プログラムの整備

胆沢ダムの集水域の森林は、ブナの原生林、高山植物群落、湿原植物群落などによる豊かな自然環境を有しています。奥州市胆沢ダム周辺整備等により、自然環境に十分な配慮をしながら、ダム湖周辺の散策路の整備を図り、散策路を活用した森林浴プログラムを整備し、森林浴による健康増進を図ります。

●ダム湖面を活用したカヌー・ゴムボート体験の推進

ダム湖面でのカヌー・ゴムボートの利用については、イベントでの利用を想定した取組を実施します。

また、胆沢川でのカヌーの取組と連携し、胆沢ダム湖面・胆沢川で一体となり、カヌー利用による観光レクリエーションの振興を図ります。



●ビューポイントを伝えるフォトコンテストの開催

胆沢ダムの完成により、扇状地の眺望を楽しむ場などのビューポイントが生まれることを踏まえ、ビューポイントを見つけるためのフォトコンテストを開催します。胆沢ダム周辺に生息するカタクリの群落やユキツバキなどの自然や環境なども題材とし、胆沢ダム周辺の魅力的な資源を伝えます。

また、来訪者へ胆沢ダムの魅力を広く知っていただくため、多くの来訪者が訪れる施設等に受賞作品を展示します。

●ビューポイントマップの作成・配布

フォトコンテストで応募されたビューポイントを伝えるため、写真撮影ポイントの案内や導線路をまとめたビューポイントマップを作成・配布し、観光による地域活性化を図ります。

●ダム湖面利用のルールづくり

「ダム湖利活用協議会（仮称）」を設立し、水道水源としてのダム湖の水質保全を前提に、観光・レクリエーションとしての湖面の利活用方法などを検討します。

他ダムでの湖面利用の事例も踏まえ、外来種の放流防止や花火などの火の使用、ボートやカヌーなどの湖面利用等のルールを作ります。そして、運用実態に即して適宜見直しを図ります。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆胆沢川を活用した体験観光

胆沢川は、胆沢ダム完成後に河川維持流量が確保されることから、豊富な水量を活かし、現在部分的に行われているサケの放流やカヌーによる川下りなどの活動の拡充、胆沢川の自然を活かした体験学習を推進させ、胆沢川を活用した体験観光を推進します。

<具体的な取組>

●カヌーやゴムボート等を活用した体験観光の推進

胆沢ダム周辺整備と連携して、カヌーやゴムボート等の活用可能な環境を創出し、体験観光や子どもたちへの学習等への活用を推進します。また、カヌーやゴムボート等の利用を活発化するためのプログラムの整備、人材育成や支援する体制を構築し、体験観光を推進します。



ただし、胆沢川に放流する発電の流量は電力需要の兼ね合いにより変化することから、カヌー利用に際しては利水者との協議・調整が必要となります。

●胆沢川の釣り利用による体験観光の推進

安定した流量によりアユやイワナなどの生息環境の向上を図って、釣りが楽しめる場所を豊かにし、遠方からの来客も視野に入れた観光振興を図ります。特に、アユを採る梁漁は観光としての価値も高く経済効果も見込まれることから、その可能性を探ります。

また、河川維持流量により水生生物の生息・生育環境が向上されることから、現在実施されているサケの稚魚の放流やサケの遡上に併せたイベントを発展させ、子供たちが水源地域に興味を持つ取組を行います。

●胆沢川の自然や文化を活かした体験学習の推進

現在実施されている、胆沢川の自然や文化を活かした体験学習の更なる推進を図ります。また、芋煮や河原での遊びなど、胆沢川の「河原文化」を実体験できる取組を推進します。さらに環境学習のような、自然体験を意識した幼児教育などに、胆沢川を活用できるようにします。

ただし、河川維持流量が確保されることで胆沢川の変化することから、水量による胆沢川の水位の変動が少ない場所の選定など、安全性を確認した後に取り組みます。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆胆沢扇状地を活用した観光

胆沢扇状地及びその周辺部には、日本三大扇状地である胆沢扇状地そのものをはじめ、焼石岳、散居集落、旧穴山堰、ミズバショウ群生地などの多様な水風土資源や、平泉の前史にあたる歴史・文化資源が豊富に存在しています。このような胆沢の水風土資源を保全しながら、着地型観光やグリーンツーリズムの推進、農業、漁業、商業の振興などに活用し、地域の活性化を推進します。

<具体的な取組>

●水風土資源を活かした着地型観光の推進

胆沢扇状地、焼石岳、散居集落、旧穴山堰、ミズバショウ群生地などの多様な水風土資源や、平泉の前史にあたる歴史・文化資源を活かした着地型観光を推進します。推進に際しては、既存の計画（胆沢平野土地改良区の「田園空間博物館構想」）などと連携しながら行います。



●豊かな自然の活用と農業・収穫体験等のグリーンツーリズムの構築

胆沢ダムの位置する胆沢区では、「水と緑と散居のまち」をキーワードに、ヒメカユウ、ユキツバキやミズバショウなど豊かな自然の活用と農業・収穫体験等によるグリーンツーリズムを推進していることから、胆沢扇状地及びその周辺部の水風土資源を活用した特徴的なグリーンツーリズムに発展させていきます。

また、胆沢ダムや周辺の温泉施設などと連携した観光コースづくりを行います。

●石淵ダムのメモリアル、胆沢ダムの機能・役割を伝える場の整備

胆沢ダム完成に伴い、上流の石淵ダムは胆沢ダム湖に完全に水没することになります。そのため、胆沢ダム管理支所の学習スペースに、石淵ダム堤体材料の一部の展示や、石淵ダムの歴史や役割の解説、胆沢ダムの機能や役割、地域の歴史や水資源の重要性について学ぶ場として整備します。そして、次世代を担う子どもたちの観光や環境学習としての学習スペースの利活用を推進します。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆既存資源の利活用と新たな資源の発掘による地域産業の振興

胆沢扇状地及びその周辺部には、多様な水風土資源や「前沢牛」、「奥州牛」、「りんご」、「ハトムギ」、「米」に代表される農作物や畜産物が豊富に存在しています。

新たな資源の発掘として、胆沢ダム水源地域で生産された地域の特産品を“水風土特産品”として位置づけるとともに、特産品の価値を高め全国に発信します。そして、“水風土特産品”と水源地域の保全が強く結びついていることを伝え、一般消費者による購入が水源地域の環境保全や地域貢献につながることを伝えます。

<具体的な取組>

●ブナの森、わらびや山菜採りなど、既存資源を活用した観光の推進

胆沢地区の観光資源、胆沢扇状地、焼石岳、温泉、スキー、ブナの森、わらびや山菜採りなど、現在ある既存資源を活かした観光を推進します。これらを含む資源に農村文化景観が形成されていることから、これらを観光資源として活かし、都市住民や下流住民と観光交流を図ります。

●水風土特産品の発掘・ブランド化

当地域は、「前沢牛」、「奥州牛」、「りんご」、「ハトムギ」、「米」に代表される岩手県内屈指の農業地帯です。

これらの地元の食資源や湧水などで作られた「奥州古代米ロール」や「循環型農業で生産された米」など特産品の発掘や、新たな特産品の開発を進めます。

そして、地域の特産品が水源地域の保全に強く結びついていることを伝えるため、“水風土特産品”としてブランド化を図るとともに、特産品の価値を高め全国に発信します。



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆管理や利用のルールづくり

胆沢ダム完成に伴い、広大な湖面を有した胆沢ダム、豊かな水量と水質を有した胆沢川が新たな親水の場となりえます。胆沢ダムの湖面や胆沢川では、カヌー・釣りなどの利用が期待されることから、環境保全や安全管理などのルールづくりも含めて検討します。

また、水源地域の持続的な保全を図るため、適正な森林管理を推進します。

<具体的な取組>

●胆沢川を利用する際の安全管理の推進

胆沢ダム完成後、胆沢川でのカヌー利用が期待されますが、一部の箇所においてはカヌー利用の条件が厳しいことから、胆沢川での水難事故を防止するための安全管理が必要です。

また、河川維持流量が確保されることにより、胆沢川の環境が変化することから、胆沢川での体験学習を実施する際は、水量による胆沢川の水位の変動が少ない場所の選定など、安全性を確認した後に取り組みます。

加えて、様々な用途での利用が考えられることから、利用時期・範囲などの協議を行い、ルールを検討します。



●CO₂の排出量を削減する森林管理の推進

地球上の二酸化炭素循環の中では、森林がCO₂吸収源として大きな役割を果たしています。岩手県では県有林における森林吸収量プロジェクトとして、適正な間伐によるCO₂吸収量をクレジット化し、販売収益で県有林事業に還元することで持続可能な森林経営を推進しています。

今後は水源地域の森林をCO₂の吸収源※、排出権取引の対象としても捉えた森林管理を推進します。

※乗用車1台当たりの年間CO₂排出量2.3トンを吸収するためには、80年生のブナ林が約0.5ヘクタール必要

●ダム湖面利用のルールづくり（再掲）

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

【共通分野】

◆水資源や自然環境を活かした新エネルギーの導入（エネルギー）

水源地域としての自立的・持続的な発展を目指すため、豊かな水資源や自然環境を活かし、経済の活性化や産業振興の観点重視しつつ、新エネルギーを積極的に導入し、魅力ある地域づくりをめざします。

<具体的な取組>

●農業用水を利用した小水力発電の推進

胆沢ダムのかんがい用水が流れる農業用水路と、ダム、ため池などの農業水利施設には、未利用の落差や、余剰な水のエネルギーを減ずるための施設が多数あり、それらを利用した小水力発電の適地も数多くあると考えられます。

そのため、農業用水等を利用した小水力発電の整備を検討し、農業水利施設の操作用電力の供給による維持管理費の軽減や、地域の農業用施設や公共施設への電力供給などを目指します。

●間伐材を活用したバイオマスエネルギーの活用

近年、木材価格の低下や従事者の高齢化、所有者の山に対する考え方の変化から山林の荒廃化が懸念されます。そのため、里山を間伐し、間伐材を利用した木質バイオマスエネルギーの活用の推進を図ります。



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆人材の育成・支援（人材育成）

胆沢ダム水源地域の自立的、持続的な地域の活性化を図っていくためには、様々な取組を展開するための人材が欠かせません。地域の人材育成については、環境学習、農業体験、食育等の実体験や、先人の言い伝えの伝承などを通して、明日を担う若い世代が地域の自然や文化などに関心を持ち、水源地域を誇りに思うような取組を推進します。

<具体的な取組>

●郷土の誇り・偉人を学び・伝える仕組みづくり

水源地域の誇りとしての自然、施設、歴史、文化や風習などを地域住民から募り、流域の誇り、知恵を子ども達に伝えます。また、胆沢の自然を含めた郷土を愛し、誇りに思う子どもたちを育てるために、現在展開されている出前授業などを踏まえ、教師への教育を行います。

●「総合的な学習の時間」を利用した啓発・教育の推進

小中学校で実施されている「総合的な学習の時間」において、水源地域に関する学習冊子や胆沢ダムに関するパンフレットを活用することにより、ダムの役割等に関する情報や総合学習の題材を積極的に提供し、限りある水資源や水質保全に関して啓発・教育を推進していきます。また、小学生による胆沢川の水質調査やサケの稚魚放流などが実施されていることから、地域の小学校へ胆沢ダム水源地域に関する総合学習の充実を図ります。

●観光の担い手の発掘・育成

グリーンツーリズムや着地型観光の推進にあたり、地域の内外で観光にて成功されている方を観光アドバイザーとして招聘し、観光を核としたビジネス研修を行うなど、観光の担い手の育成を行います。また、胆沢ダム完成後に交流人口が拡大することを想定し、受け入れ側のホスピタリティの向上を図る運動や支援の仕組みの構築を図ります。

●食育による水源地域の担い手の育成

胆沢ダムの水はかんがい用水として供給されることから、かんがい用水を用いて収穫された地場農産物の生産を通じ、子どもたちへの安全な食品を提供する食育を展開します。そして、明日を担う若い世代が農作物を通じて地域の自然や文化に関心を持ち、水源地域を誇りに思うような担い手の育成を図ります。



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆ 広報・啓発の推進（情報発信）

胆沢川流域の人々が水源地域の役割や機能、その恵みを享受していることに気づき、水源地域が流域圏全体の資産であることの認識を深めながら交流・連携を推進していくためには、水源地域からの情報発信が不可欠です。

そのため、水源地域の役割や機能はもとより、魅力や資源、水源地域を守り育む取り組みなど、水源地域の様々な情報を、多様な広報媒体やイベント、キャンペーン等を利用して広く情報発信します。流域に暮らす人々に、今一度、水利用のあり方を見直し、水のありがたさの再認識を促すとともに、子供達にも水の大切さを伝えます。

<具体的な取組>

● 「総合的な学習の時間」を利用した啓発・教育の推進（再掲）

● 広報やイベント等による水源地域ビジョン推進の意識の喚起

水源地域ビジョンのホームページや広報誌等を作成し、それらに水源地域ビジョンでの活動内容の情報を発信することで、水源地域ビジョンの推進に向け流域住民に対する意識の喚起・高揚を図ります。



● 行政や活動団体相互のHPとリンクした水源地域情報専用HPの開設

インターネット上において水源地域に関する専用のホームページを立ち上げ、水源地域の自然環境や地域のイベントなどの情報を発信していきます。また、ホームページ上において、関係行政や活動団体等のホームページ間のリンクを図り、水源地域に関わる様々な情報の発信を行っていきます。

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆上下流交流の活発化（交流・推進）

水源の森林、胆沢ダム、胆沢扇状地が育む水の大切さを胆沢扇状地の住民や北上川下流域の住民に伝えていくことが必要です。上流住民にとっては、下流との交流を通して上流の環境を守り育てるの意義を伝えることができることから、水でつながる地域の交流を活発化することが期待できます。

<具体的な取組>

●胆沢ダムから最下流域（海）の流域住民を含めた上下流交流

現在、市民団体の活動において、上流域の植樹活動、下流域の海岸清掃などで石巻市の団体と連携した取組が展開されています。今後も本川である北上川の中流、下流との交流・連携によって、北上川流域の共有資産である胆沢ダム水源地域の活性化を図ることが望ましいと考えられます。そのため、最下流域の石巻市の「海」までの北上川流域を含めた範囲で、上下流交流による取組の活発化を図ります。

●秋田県との交流

本地域は、大清水上遺跡や仙北街道があり、日本海側の秋田県と太平洋側の岩手県との接点であると言われています。胆沢地区では秋田県東成瀬村との交流を推進していることから、水源地域ビジョンの取組の中でも、秋田県側との交流を推進します。

●カヌー活動を通じた北上川流域との上下流交流

北上川では、様々な団体によるカヌーに関する活動が展開されています。胆沢ダム周辺整備と連携して、カヌーやゴムボート等の活用可能な環境が整備された後、胆沢川でのカヌー活動への呼びかけを行うなど、北上川流域での上下流交流による取組の活発化を図ります。

●清掃活動等による、水質改善に向けた流域住民の意識の喚起

胆沢ダムの水の大切さを伝えるためには、下流域の人々との交流により伝える取組が必要であります。そのため、清掃活動を流域一体で実施するクリーンアップイベントなどを上下流の連携によって実施するなど、水質の保全に向けた、意識の喚起・高揚を図ります。



2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆水源地域ビジョンの推進体制の構築（交流・推進）

水源地域ビジョンの推進のため、多様な主体の参加と協働によって推進する仕組みづくりを行い、胆沢ダム水源地域の水風土を将来にわたり持続的に発展させていくことが必要です。そのためには、自立的で持続的な資金と人材を確保し、それらによって水風土の保全と活用が促され、さらにそれらが新たな資金と人材を生み出すというような好循環の仕組みづくりなどを推進します。

<具体的な取組>

●水源地域ビジョンの推進体制の整備

水源地域の活性化の効率的かつ持続的な実施のためには、水源地域の活動団体やコーディネーター、水源地域や流域の住民・団体・行政・学校・大学・企業など、多様な人々が、その特性に応じて役割を分担することが重要です。そのため、ビジョン推進体制の整備を行います。

●ビジョン推進に向けた住民が参加できる場づくり

住民参加により水源地域ビジョンを推進するためには、企画から整備において、住民が参加できる仕組みづくりが必要です。ビジョンの取組を進めるにあたり、参加者により様々な意見が出てくることから、そのような意見交換と調整を行います。



●ビジョン推進のための資金確保

ビジョンを推進するにあたり、活動資金の確保が必要です。活動資金の確保のため、国・自治体による公的な助成制度をはじめ、公益団体や企業などの助成制度の情報収集を行います。

そして、自ら資金を確保できるような体制を作り、自主的な資金確保の能力を高めることを目指します。また、企業が参画しやすいように、企業の取組との連携を模索します。


ビジョン推進の初期段階では、助成金の獲得を行って取組を軌道に乗せ、その後、下流住民や国民の寄付を求める、観光や産業振興のビジネス化によって資金を確保する、流域の企業等からの社会貢献活動として資金の補助や人材支援を受けるなど、多様な資金の確保を検討します。


2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

2.3 水源地域活性化のためのプロジェクト


水源地域の現状と課題、基本理念・基本方針の位置づけのもと、「胆沢ダム水源地域ビジョン作業部会」での意見交換を踏まえ、具体的な取組事項の中でも先行的に実施することが望ましい水源地域活性化のための9つのプロジェクトを位置づけます。

◆「胆沢扇状地の豊かな水と森林などの資源を守り育み、活かす」を具体化するプロジェクト

名称	胆沢・みんなの水源の森プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆胆沢扇状地の水資源を育む水源の森林や里山を保全するため、地域住民、下流住民、企業等の参加と連携による植樹や森林の育成、保全活動を行います。 ◆CO₂の吸収源としての森林の保全・育成も含め、現在行われている植樹活動や森林の育成・保全活動を連携させます。そして、下流住民等の参画によってさらに拡大していきます。 ◆胆沢ダムのシンボルとして、国道397号沿いの桜（桜の回廊）がダム堤体直下まで続くように植樹していきます。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・胆沢ダム完成後の水源における植樹活動の推進（継続・発展） ・人工林の間伐の推進と生物多様性に配慮した森林整備（継続・発展） ・里山の間伐の推進（継続・発展） ・胆沢ダムから最下流域（海）の流域住民を含めた上下流交流（継続・発展） ・地域住民と連携した桜街道の保全と創出（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行われている植樹活動や森林の育成・保全活動の継続 ・下流住民等の参画 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定後～（策定後すぐに植樹活動を推進。本格的な実施はダム完成後） ・胆沢ダム周辺整備事業実施中（地域住民と連携した桜街道の保全と創出） 	



名称	胆沢ダム・水の保全プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆胆沢ダムが育む豊かな水資源は、胆沢扇状地の産業と生活を将来にわたり支える基盤であるため、水源地域内、流域内のゴミの清掃活動等により、水源地域の環境保全を行います。 ◆また、各家庭からの生活排水による汚濁の負荷の低減や利水者と連携した水質調査の実施を図り、岩手県屈指の清流である胆沢川の水質保全に努めます。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域内、流域内のゴミの清掃活動の推進（継続・発展） ・家庭からの生活排水による胆沢川の水質汚濁の改善（継続・発展） ・清掃活動等による、水質改善に向けた流域住民の意識の喚起（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域内、流域内のゴミの低減 ・秋田県の団体と連携した清掃活動の推進 ・胆沢川の水質維持 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定後～ 	

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組


名称	胆沢ダム・生物保全プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆胆沢ダム周辺の貴重な生物種を保全するため、自然環境の保全と共生を図る環境学習や管理を行います。 ◆ダム上流部の大平野地区のビオトープや徳水園のビオトープなどを環境学習のフィールドとし、自然環境についての学習会等を開催していきます。 ◆胆沢扇状地のミズバショウ群生地を地域の住民、行政、企業などの多様な主体の参加と協力により、持続的に保全・管理していきます。 ◆胆沢ダムからの放流で胆沢川の流況を改善し、生態系の保全を図ります。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な生物種の生息・生育環境の保全・整備（継続・発展） ・ ミズバショウ群生地の保全・管理（新規） ・ 胆沢ダム及び胆沢川での外来種の駆除（新規） ・ 胆沢川の生物の生息・生育環境の保全を目的とした河床の保全（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胆沢ダム周辺的环境保全 ・ 自然環境についての学習会の発展 ・ 市民によるビオトープ管理（アドプト制度）の確立 ・ 市民や活動団体によるミズバショウ群生地の維持・管理の確立 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム完成後（平成 26 年度）～ 	


2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆「胆沢ダムが育む水風土資源を活かした環境学習・観光レクリエーション振興を図る」を具体化するプロジェクト

名称	“胆沢まるごとダムパーク” 活用プロジェクト	
概要	<p>◆胆沢ダム完成に伴い、国内最大級のロックフィルダムが現実となります。胆沢ダム・胆沢川などの新たな水風土資源を活用するため、既存資源とリンクした観光振興、ルール作りを行います。</p> <p>◆ダム周辺の展望広場、親水公園、カヌーコースなどの新たな水風土資源を活かし、ダム湖周辺での森林浴、既存施設「ひめかゆ」や胆沢スキー場などのレクリエーション資源とリンクさせます。そして、「胆沢まるごとダムパーク」として一体化して活用し、観光振興を図ります。</p> <p>◆また、森林浴による健康増進、ウォーキング利用、カヌーなどの水面利用や、ダム湖の風景を楽しむ場としての活用を図ります。</p> <p>◆「ダム湖利活用協議会（仮称）」を設立し、水道水源としてのダムの水質保全を前提に、水面利用のルールづくりを行います。</p>	 
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖散策路を活用した森林浴プログラムの整備（新規） ・ダム湖面を活用したカヌー・ゴムボート体験の推進（新規） ・ビューポイントを伝えるフォトコンテストの開催（新規） ・ビューポイントマップの作成・配布（新規） ・ダム湖面利用のルールづくり（新規） ・石淵ダムのメモリアル、胆沢ダムの機能・役割を伝える場の整備（新規：周辺整備） ・扇頂部から見渡せる展望台の整備（新規：周辺整備） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖周辺の有効活用 ・来訪者や観光客の増大 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定後～（具体的なダム湖活用はダム完成後（平成 26 年度）～） 	


2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組


名称	胆沢川釣りプロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆胆沢ダム完成後を契機に、一定の常時流量も確保される胆沢川を親水の間として利用するため、釣り場の利用を推進します。 ◆胆沢川にアユなどを釣る場所を形成し、遠方からの観光客も視野に入れた振興を図ります。併せて、必要な安全管理や環境保全も行います。 ◆現在行われている、サケの稚魚の放流やサケの遡上に併せたイベントを発展させ、子供たちが流域に興味を持つ取組を行います。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・胆沢川での釣り利用による体験観光の推進（アユ釣り場の形成（新規）、サケの稚魚の放流（継続・発展）、サケの遡上に併せたイベントの実施（継続・発展）） ・胆沢川の自然や文化を活かした体験学習の推進（継続・発展） ・胆沢川を利用する際の安全管理の推進（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・釣り利用客の増大 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム完成後（平成 26 年度）～ 	

名称	胆沢川カヌープロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆一定の常時流量も確保される胆沢川を親水の間として利用するため、豊富な水量を活かしたカヌー活動を推進します。 ◆胆沢ダム周辺整備と連携して、豊富な水量を活かしたカヌーやゴムボート等の活用可能な環境を創出し、体験観光や子どもたちへの学習等への活用を促進します。 ◆カヌーを通じて、体験学習、観光活用、環境学習を図っていきます。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーやゴムボート等を活用した体験観光の推進（継続・発展） ・胆沢川の自然や文化を活かした体験学習の推進（継続・発展） ・胆沢川を利用する際の安全管理の推進（新規） ・カヌー活動を通じた北上川流域との上下流交流（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー利用者の増大 	
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定後～（本格的なカヌー活動はダム完成後（平成 26 年度）～） 	

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組


◆「胆沢扇状地の自然・歴史・文化資源を活かした産業振興を図る」を具体化するプロジェクト

名称	水風土観光プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本三大扇状地である胆沢扇状地をはじめ、焼石岳、散居集落、旧穴山堰などの多様な水風土資源を観光資源として活用するため、グリーンツーリズムや着地型観光を行います。 ◆平泉などの周辺地域や北上川の上下流とも連携を図り、観光ガイドやグリーンツーリズムを通じた観光振興を図ります。 ◆また、観光資源を組み合わせた着地型観光のコースを構築し、外部からの誘客を図ります。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水風土資源を活かした着地型観光の推進（継続・発展） ・豊かな自然の活用と農業・収穫体験等のグリーンツーリズムの構築（継続・発展） ・ブナの森、わらびや山菜採りなど、既存資源を活用した観光の推進（新規） 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・奥州市、金ヶ崎町へ訪れる観光客の増大 ・グリーンツーリズムや着地型観光のプログラムの充実 	
期間	・ビジョン策定後～	

名称	水風土特産品プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆胆沢ダムを含んだ水源地域で形成された地域の特産品を広めるため、“水風土特産品”として位置づけ、特産品の価値を高め全国に発信します。 ◆“水風土特産品”と水源地域の保全が結びついていることを伝え、一般消費者による購入が水源地域の環境保全や地域貢献につながることを伝えます。 	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水風土特産品の発掘・ブランド化（新規） ・豊かな自然の活用と農業・収穫体験等のグリーンツーリズムの構築（継続・発展） ・食育による水源地域の担い手の育成（継続・発展） 	
目標	・“水風土特産品”の販売増大	
期間	・ビジョン策定後～	

2 胆沢ダム水源地域ビジョンの取組テーマと具体的な取組

◆「水でつながる地域と上下流の交流を活発化する」を具体化するプロジェクト

名称	上下流交流活性化プロジェクト	
概要	<ul style="list-style-type: none">◆上下流の交流を活発化させるため、水源の森林、胆沢ダム、胆沢扇状地が育む水の大切さを、胆沢扇状地の住民や北上川下流域の住民に伝えていきます。◆水を大切にする意識を向上し、森と川及び海を守り育む行動につなげるため、水でつながる地域の交流を活発化する取り組みを推進します。◆現在行われている植樹・育樹活動を通じ、地域住民や活動団体の交流・連携を活発化させるとともに、胆沢川・北上川を通じた上下流交流を展開します。	
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・胆沢ダム完成後の水源地における植樹活動の推進（継続・発展）・胆沢川の釣り利用による体験観光の推進（アユ釣り場の形成（新規）、サケの稚魚の放流（継続・発展）、サケの遡上に併せたイベントの実施（継続・発展））・カヌー活動を通じた北上川流域との上下流交流（新規）・胆沢川の自然や文化を活かした体験学習の推進（継続・発展）・豊かな自然の活用と農業・収穫体験等のグリーンツーリズムの構築（継続・発展）・胆沢ダムから最下流域（海）の流域住民を含めた上下流交流（継続・発展）・清掃活動等による、水質改善に向けた流域住民の意識の喚起（新規）	
目標	<ul style="list-style-type: none">・上下流交流の増大	
期間	<ul style="list-style-type: none">・ビジョン策定後～	